

JA東びわこ

令和5年度 自己改革報告書

「食」・「農」・「地域」をつなぐ魅力あるJAづくりを目指して



「進・深・伸」高木富也さん



「WA!」大曲智美さん



「お田植え祭」辰巳敬造さん

目次

はじめに	2
1、農家組合員の所得増大・農業生産の拡大の取り組みについて	3
① 持続的・生産性の高い農業の実践	
② 地域農業の持続と発展に向けた取組強化	
③ 自己改革による経済事業コスト低減の取り組み	
2、地域の活性化の取り組みについて	5
① 地域拠点としての直売所機能検討と活性化	
② 顧客に寄り添った事業展開	
③ DX（デジタルトランスフォーメーション）への取り組み	
3、JA経営基盤確立・強化の取り組みについて	7
① 投資の選択と集中による経営資源の効率化	
② 農業施設の在り方と収支改善・今後の方向性	
4、組合員との対話・意思反映について	9
① 組織基盤の強化	

組合員大学を開校



管内地域や地域に従う組織を牽引する将来の地域リーダー育成を目的として、農業経営の知識や技能習得をはじめ、創造力や人間力の向上など充実した「学びの場」となるよう組合員大学「あぐりライフ」を開校しました。

令和5年度はベーシックコースの1期生として、20～50歳代の14名に全7回のカリキュラムを受講、修了いただきました。

将来の地域を担っていく意欲的な参加者が取り組みを通じて見聞を広め、多角的な視野を持つことで、地域農業を継続させる力を養い、参加者同士のつながりを生み出していけるようJAとして伴走してまいります。

JA東びわこの自己改革報告書

＝ 令和5年度報告 ＝

はじめに

JA東びわこは、令和5年度より第9次中期経営計画書を策定し、組合員との徹底した対話に基づき「農家組合員の所得増大と農業生産の拡大」「地域の活性化」「不断の自己改革の実践を支える経営基盤の強化」を基本目標として取り組んできました。

農業分野ではスマート農業の実践に向け、圃場管理システム「Z-GIS」や栽培管理システム「ザルビオ」の導入促進、新たな特産品づくりとして果樹団地形成に向けた取り組みを進めました。米の販売方式については、インボイス制度に対応するため、米の買取販売を委託販売へ移行し、農協特例を活用することで農家の負担軽減に取り組みました。

経営基盤の強化として、地域社会のインフラ機能の充実を図るため、彦根地域に家族葬ホール「虹のホールやわらぎ彦根」をオープンしました。また、組合員のデジタル支援の取り組みとしてスマホ教室の開催や、地域をけん引する将来の組合員リーダーの育成を目指して、組合員大学「あぐりライフ」を開校しました。

「自己改革報告書」は、令和5年の総代会で組合員の皆さまにお示しいたしました自己改革工程表に対して、現在の取り組みや進捗状況をご報告するものです。

JA東びわこが目指す自己改革はJA東びわこ役職員の力だけでなく、組合員皆さまのご協力、ご理解なくしては実現することができません。

今後もJA東びわこが健全経営を実施できるよう更なる自己改革を進め、組合員の皆さまの「協同組合」として農業と地域の未来を拓いていけるよう取り組んでまいります。

基本理念

「食」・「農」・「地域」をつなぐ魅力あるJAづくり
～持続可能な農業と地域共生社会の実現を目指して～

経営指針

1. 農家組合員の所得増大と農業生産の拡大を目指す (JA地域農業戦略)
2. 地域の活性化を目指す (JA地域暮らし戦略)
3. 不断の自己改革の実践を支える経営基盤の強化を目指す (JA経営基盤戦略)

1 農家組合員の所得増大・ 農業生産の拡大の取り組みについて

① 持続的・生産性の高い農業の実践

県内需要に対して供給量が不足している果樹栽培に注目し、新たな特産品の産地化形成に向けてブドウ栽培トレーニング施設を設置しました。トレーニング施設の運営を進める中で、各営農経済センターから若手営農指導員も参加し、研修会の開催や技術・知識の習得に取り組みました。また、各営農経済センターで果樹団地形成に向けた取り組みを進めています。

スマート農業実践の取り組みとして、圃場管理システム「Z-GIS」と栽培管理システム「ザルビオ」の導入を促進し、データを基にした作業計画のサポートや農家の作業効率化、コストダウン、収量アップ等の支援を行いました。



ブドウ栽培トレーニング



栽培管理システム
「ザルビオ」の現地実演

② 地域農業の持続と発展に向けた取組強化

地域農業の後継者不足が深刻化している中、これからの地域農業の持続と発展に向けて、担い手や集落営農法人との事業承継を含めた連携を進めるため、(有)アグセス愛知と(有)ホープひこねの統合を進めました。また、新規就農希望者を子会社社員として雇用し、将来の地域農業の担い手として育成・支援を進めています。

農業との兼業兼職を実現する取り組みとして、多様な農業者の参加と普及推進を行うため、農家と農業バイト希望者がマッチングできる「一日農業バイトアプリ」の導入を検討しました。



「一日農業バイトアプリ」の
導入検討

③ 自己改革による経済事業コスト低減の取り組み

低コスト・省力化の取り組みとして、個別農家への資材提案力を強化し、土壌診断結果データを基に個別施肥体系見直しによる施用ロスの削減を目指しました。また、水稻直播新技術「リゾケア」の研修会を開催し、直播農家への提案や情報発信を行い、農業生産コストの低減に取り組みました。

自己改革の取り組みとして、平成29年度より始めた常勤役員による担い手訪問を令和5年度も引き続き実施し、農家組合員の皆さまとの対話を通じて、契約出荷の確認、試験栽培や生育調査の実施など営農情報を生産者へ発信しました。



水稻直播新技術
「リゾケア」の現地研修会



常勤役員による担い手農家訪問

農家組合員の所得増大・ 農業生産の拡大の取り組みについて

< 重点目標 >

< 成果指数・目標値 >

No	重点実践項目	主な対象先	行動計画	目標値 (令和5年度)		令和5年度	担当部署
1	持続的・生産性の高い農業の実践	担い手経営体 中核的な担い手 多様な担い手	ブドウ栽培トレーニング施設の設置・運営を行い、各営農経済センターにおいて、それぞれの地域で新たな果樹園の設置と拡大に取り組みます。	ブドウ栽培 トレーニング 施設運営	目標	ブドウ栽培 トレーニング 施設運営	営農 振興課
					実績	運営開始	
2			圃場管理システム「Z-GIS」と栽培管理システム「ザルビオ」の導入を推進し、農家の作業効率化、コストダウン、収量アップ等を支援します。	目標件数:新規10件 (既導入件数26件) 合計36件	目標	年間36件	営農 振興課 T A C
					実績	44件	
3			J A 農業事業承継支援を活用した後継者への円滑な経営承継支援の相談対応を行います。	・地域の担い手確保に向けた事業承継 目標承継件数:5件 (対象農家 30件) ・事業承継研修会の 随時開催	目標	事業承継 年間5件	営農 振興課 T A C
					実績	新規事業承継案件1件 昨年からの継続案件1件 相談案件 3件	
4	地域農業の持続と発展に向けた取組強化	担い手経営体 中核的な担い手 多様な担い手	J A 子会社の経営統合を進めていきます。また地域農業を守る集落営農法人と事業承継を含めた連携検討と実践を行います。	集落営農法人への事業承継を含めた連携検討と拡大	目標	・子会社の統合準備 ・集落営農法人から 事業承継検討と実践	T A C 子会社 事務局
					実績	・子会社の統合準備 ・営農組織より受託 9.4ha	
5			地域の担い手づくりを目的に子会社社員として雇用し、新規就農者の育成・支援を行います。	新規就農者の育成	目標	子会社新規雇用 1名	
					実績	子会社新規雇用 2名	
6	自己改革による経済事業コスト低減の取組み(経済)	担い手経営体 中核的な担い手 多様な担い手	個別農家(担い手・多様な担い手)への資材提案力の強化対策を実践し、土壌診断結果データなどを参照し、個別施肥体系見直しプラン提案を実践します。(施肥体系のチェックにより、適正な施用体系の個別提案力強化を図ります)	施肥体系の見直しによる施用ロス削減 目標件数:20件	目標	見直し目標 20件	経済課
					実績	資材見直し提案 13件	

② 地域の活性化の取り組みについて

① 地域拠点としての直売所機能検討と活性化

経営収支改善の観点から美浜館の直売所機能の見直しを行い、冬季休業を実施しました。また、やさいの里二番館の売り場面積を拡大するため、協議・検討を行いました。

地産地消の取り組みを進めるため、学校給食や企業、飲食業者向けの営業を行い販売拡大しました。

1支店1協同活動の一環として、愛知川支店や河瀬亀山支店では、支店管内の直売所とタイアップして支店祭りを開催し、協同活動の相乗効果を最大限に活かして、新規顧客の拡大や直売所の売上アップに貢献しました。



美浜館



直売所と支店がタイアップした感謝祭

② 顧客に寄り添った事業展開

資産の色分け「ためる・使う・備える・増やす・残す」にあった金融総合提案活動に取り組み、LPCによる組合員・利用者との会話を通じてニーズを把握し商品の提案を行いました。

土曜日営業の定着化に向け、訪問型営業を管内11支店で毎月1回実施しました。また、本店においては、来店誘致型営業を毎週土曜日の午前中に実施し、提案・相談業務の充実を図りました。



LPCによる提案活動

③ DX（デジタルトランスフォーメーション）への取り組み

組合員のデジタル活用支援を進めるため、組合員向けスマホ教室を管内4拠点支店で開催し、多数のご参加をいただき高評価を得ました。スマホ教室には職員も参加しノウハウを学び、組合員がデジタル化の流れから取り残されないためのサポート体制を整えていきます。

SNSを最大限に活用するため、LINEの登録者やInstagramのフォロワーを増やす取り組みを行い、SNSを通じて組合員接点の構築を進めています。今後もSNSによる情報発信を続け、アンケートを定期的実施し、頂いたご意見を事業に反映できる仕組みづくりに取り組みます。



スマホ教室を開催



LINE・Instagram

地域の活性化の取り組みについて

< 重点目標 >

< 成果指数・目標値 >

No	重点実践項目	主な対象先	行動計画	目標値 (令和5年度)		令和5年度	担当部署
7	地域拠点としての直売所機能検討と活性化	組合員 地域住民	美浜館の直売所機能の見直しを関係機関や県内大学と連携して進め、地域活性化に取り組みます。	美浜館の 機能見直し検討	目標	美浜館の 機能見直し検討	直売所 統括課
					実績	冬季休業・ 時短営業の実施	
8			やさいの里二番館のリニューアル工事(売場面積拡大)を検討し、多様な出荷者の増加に取り組みます。	やさいの里二番館 リニューアル工事の 協議・検討	目標	リニューアル工事 の協議・検討	直売所 統括課
					実績	内部協議実施	
9	顧客に寄り添った事業展開	組合員 地域住民	資産の色分け「ためる・使う・備える・増やす・残す」にあった商品(信用・共済)の総合提案、相談機能の充実に取り組みます。	金融総合提案の拡充 金融総合提案活動 LPC 月80件 (一人あたり)	目標	金融総合提案活動 LPC 月80件	金融企画課 資産相談 センター
					実績	月間平均提案件数 155件	
10			訪問型営業と来店誘致型営業を行い、提案・相談業務の充実に図ります。	・土曜日営業の定着化 ・毎週土曜日 午前営業店舗 3支店	目標	毎週土曜日 午前営業店舗 3支店の検討	金融企画課 推進指導課
					実績	訪問型 月1回 (11支店) 来店型 毎週土曜日 (本店のみ)	
11	DX(デジタルトランスフォーメーション)への取組	組合員 地域住民	組合員デジタル活用支援としてJA職員向けの研修会を開催し、職員が組合員へ支援ができる仕組みづくりと事業へのデジタル化誘導(ネットバンク・Webマイページ等)に取り組みます。	組合員デジタル支援	目標	デジタル、 システム人材の育成	企画課 くらしの 活動課
12			SNSを最大限に活用し、登録者を増やす取り組みと維持する取り組みを定着化します。SNSを通じて「問い合わせ」「手続き」「相談」「コンテンツ」「繋がりに」といった組合員接点を構築していきます。	LINE登録者 4,000人 Instagram フォロワー数 600人	目標	LINE登録者 4,000人 Instagram フォロワー数 600人	企画課 くらしの 活動課
					実績	LINE登録者 6,596人 Instagram フォロワー数 656人	

③ J A 経営基盤確立・強化の取り組みについて

① 投資の選択と集中による経営資源の効率化

彦根地域の社会インフラの一つとして、社会トレンドに合わせた家族葬ホール「虹のホールやわらぎ彦根」の建設を進め、令和6年3月1日にオープンしました。

稲枝給油所については、地下タンクの使用年限が迫っていることに加え、年々揮発油を中心に取扱量が減少し収支も低下傾向にあるため、営業日や営業時間等の運営体制を見直し収支改善を図ることとしました。

農業施設の集約化と有効活用を図るため、遊休不稼働状態となっていた稲枝ライスステーションを低温倉庫化し、米の保管料による収益確保と品質向上に取り組みました。



「虹のホールやわらぎ彦根」を新築



「虹のホールやわらぎ彦根」式場



稲枝ライスステーション低温倉庫化

② 農業施設の在り方と収支改善・今後の方向性

共同利用施設の効率的な運用を進めていくため、育苗施設の播種拠点を総合育苗センターへ統一し、水道光熱費や修繕費の削減に取り組みました。

また、カントリーエレベーターの集約について2カントリーでの運用を計画し、米については計画通り稼働しました。麦については、作付け面積が大きく増加し荷受量も増えたことから、3カントリーでの稼働となりましたが、効率的な施設稼働に向け協議・検討を進めていきます。今後も引き続き、老朽化に伴う修繕費用の削減と再編による効率化を目指していきます。



厚生社カントリー



愛知中部カントリー



小麦現地検討会

J A 経営基盤確立・強化の取り組みについて

< 重点目標 >

< 成果指数・目標値 >

No	重点実践項目	主な対象先	行動計画	目標値 (令和5年度)		令和5年度	担当部署
13		組合員 地域住民	家族葬ホール「虹のホール やわらぎ彦根」の建設につ いて、早期に建設が進めら れるよう業者と連携して 進めていきます。	家族葬ホール の建設	目標	家族葬ホール の建設	葬祭課 企画課
					実績	家族葬ホール の新築オープン	
14	投資の選択と 集中による経 営資源の効率 化	組合員 地域住民	地下タンクの使用年限が 迫っている稲枝給油所につ いて、農耕用給油施設と してリニューアルを検討 していきます。	稲枝給油所 リニューアル検討	目標	稲枝給油所 リニューアル検討	経済課 企画課
					実績	従来通りの セルフスタンド方式 で運営	
15		担い手経営体 中核的な担い手 多様な担い手	遊休不稼働状態となっ ている稲枝ライスステーシ ョンや他の農業施設につ いて、農業関連施設集約化 検討委員会での協議・検討 し、施設の集約化と有効活 用を図っていきます。	・稲枝RS低温倉庫化 ・集約する施設の 明確化	目標	・稲枝RS低温倉庫化 工事 ・農業関連施設集約	施設課 企画課
					実績	・稲枝RS低温倉庫化 ・検討委員会での 協議・検討	
16	農業施設の在 り方と収支改 善・今後の方 向性	担い手経営体 中核的な担い手 多様な担い手	育苗施設統一化及びサテ ライト化による施設集約 を行い、水道光熱費や修繕 費の削減に取り組みます。	播種施設一本化	目標	播種施設一本化	施設課
					実績	1施設での播種	
17		担い手経営体 中核的な担い手 多様な担い手	米の2CEでの荷受に向け 課題、問題点の整理を行い 2CEでの荷受が可能かシ ミュレーションを行います。 麦の自家乾燥での持込 の普及に取り組み、稲枝CE の稼働を最小限に抑えま す。	2CEでの稼働	目標	2CEでの稼働	施設課
					実績	米2CEでの稼働 麦3CEでの稼働	

4 組合員との対話・意思反映について

①組織基盤の強化

地域における次世代リーダーを育成するため、組合員大学「あぐりライフ」を開校し、第1期生ベーシックコースの受講生14名が年間7回のカリキュラムを修了しました。令和6年度は、第1期生のマスターコースと第2期生のベーシックコースを開校します。

また、協同活動や支店祭り等に子育て世代が参画して、「JAファン」を増やしコアな組合員の育成を図りました。

組合員の増加と次世代対策を進め組織基盤強化に向けた取り組みの下準備として、総代選出基準を見直し総代定数の検討を行いました。また、組合員増強運動にも取り組みました。

准組合員の意見を集約し運営参画の機会を設けるため、無作為に選出された准組合員に対してモニターを募り、令和5年度は2回のアンケートを実施し、直売所の利用動向や支店協同活動について意見を聴くことができました。お聴きした意見を参考に引き続きモニターアンケートを実施すると共に、准組合員総代研修会の仕組みを通じて、「正組合員と准組合員が手を取り合って地域の農業と暮らしを守っていく」JA運営を目指します。

また、死亡・行方不明等の組合員整理を進め、組合員数の正確な把握に努めると共に、組合員事務処理の迅速化を図りました。



組合員大学1期生の皆さん



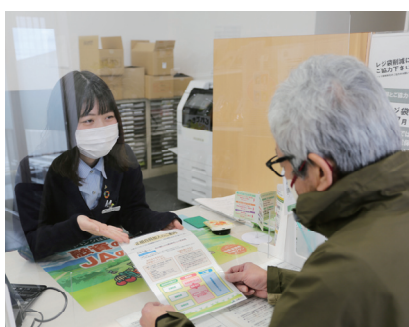
カリキュラムにある現地視察研修



グループにて意見交換



豊郷支店感謝祭



支店窓口での組合員加入促進活動



准組合員モニター募集の案内

組合員との対話・意思反映について

< 重点目標 >

< 成果指数・目標値 >

No	重点実践項目	主な対象先	行動計画	目標値 (令和5年度)		令和5年度	担当部署
18	組織基盤の強化	正組合員 准組合員	組合員大学を開校し組合員教育を進めることで、地域における次世代リーダーの育成に取り組みます。	カリキュラム 年間6回	目標	カリキュラム 年間6回	くらしの活動課
					実績	カリキュラム 年間7回	
19			アクティブメンバーシップにより「認知」「利用」「参加」「参画」のステップアップする取り組みを構築します。	協同活動や支店祭り等を通じ「JAファン」を増やしコアな組合員の育成	目標	子育て世代が参画 各支店1名以上	
					実績	各支店において 1名程度参画	
20		組合員の増加対策と次世代対策を進め、組織基盤強化に向けた環境づくりを進めます。	次世代の正組合員増加	目標	総代選出基準の検討		
				実績	基準の見直し		
21				正組合員 7,600名 准組合員 13,900名	目標	正組合員 7,600名 准組合員 13,900名	
					実績	正組合員 7,464名 准組合員 13,598名	
22		准組合員	准組合員モニター制度を実施し、集約された意見を参考に有効な運営参画の機会を設けていきます。	モニター 500人	目標	モニター500人	企画課 くらしの活動課 総務人事課
					実績	モニター300人	
23	准組合員総代研修会を実施し、准組合員の意思反映と運営参画に取り組みます。		年1回開催	目標	年1回開催		
				実績	開催なし		



人と暮らしのE関係



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

編集・発行／企画総務部

東びわこ農業協同組合

〒522-0223 滋賀県彦根市川瀬馬場町922番地1

■TEL. (0749) 28-7801

■FAX. (0749) 28-7888

■ホームページ <https://www.ja-higashibiwako.jp/>

■メールアドレス kikakuka@east.jas.or.jp

情報満載!!
ホームページ



楽しい投稿
盛りだくさん!!
インスタグラム



最新情報をお届け!
公式LINE



2024年6月発行